

身の安全の確保が図られると判断される対策の例

垂直避難が可能な居室（浸水しない居室）が設けられている場合に、居住者の身の安全の確保が図られていると判断します。

A 建築物の高床化や盛土等により対策されていると判断できる例

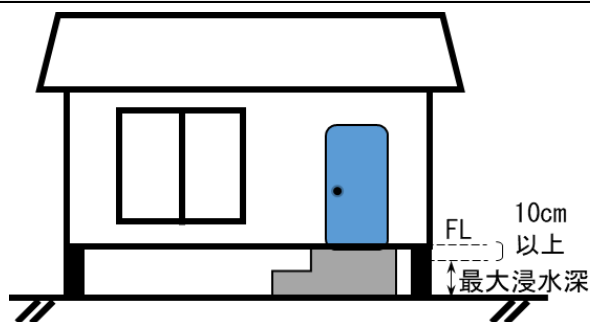


図1 建築物の高床化による対策

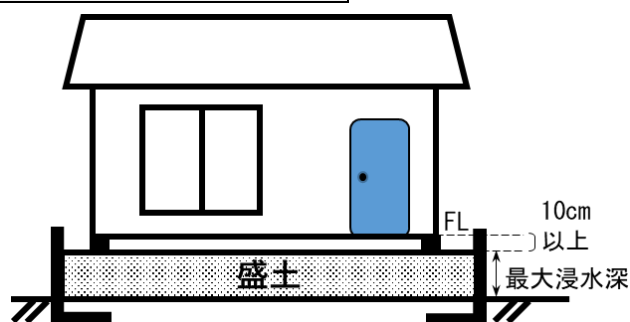


図2 盛土による対策

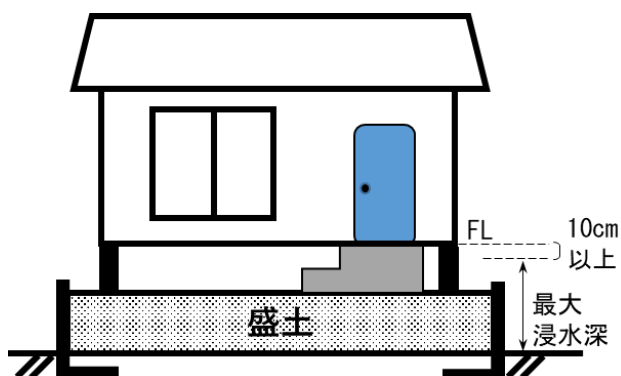


図3 盛土+建築物の高床化による対策

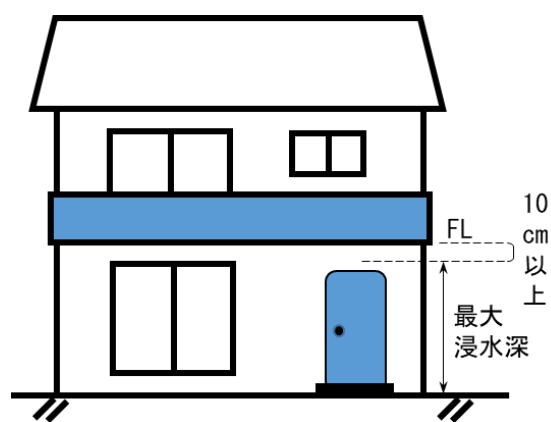


図4 上階に避難可能な居室を設ける対策

B 建築物の高床化や盛土等による対策がされていると判断できない例

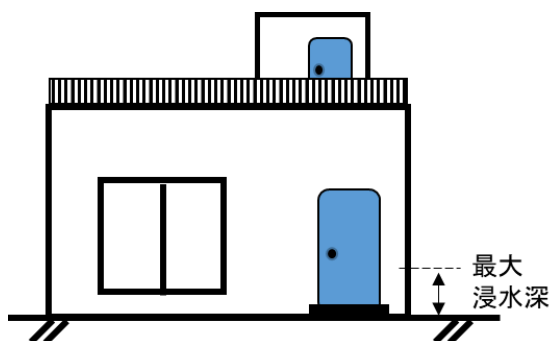


図5 屋上に避難可能であっても居室ではないので不可

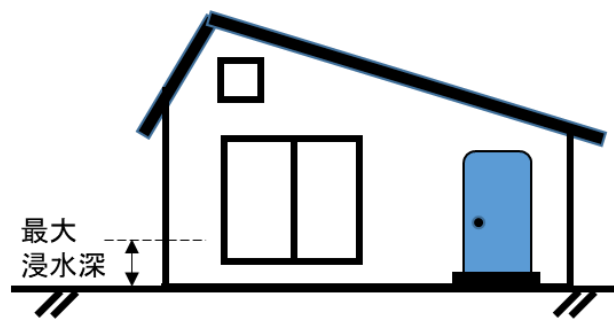


図6 上階に小屋裏収納がある場合、小屋裏は居室ではないので不可

申請時の添付図書

申請時に身の安全の確保が図られることの確認図書が必要となりますが、申請書の添付資料である造成計画断面図に最大浸水深（浸水時の水面）と1階床面の高さ（FL）、海水面からの高さを併記した計画地盤高を記載してください。また、浸水ナビで最大浸水深が表示されたページを印刷し添付してください。このほか、必要に応じて他の図書の添付をお願いすることがあります。